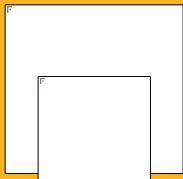


# 注目される ミャンマー介護人材



【登録支援機関】  
一般社団法人アジアヒューマンサポートセンター  
【外国人材拡大プレイス運営母体】

# ミャンマー連邦共和国

人口：5,797万人

( 2023年推計値、出所：米国中央情報局 )

首都：ネピドー

※2006年に、首都を沿岸部のヤンゴンから約320キロメートル内陸のネピドーに移転



宗教は仏教徒が約9割で、国の主要産業は農業、天然ガス、製造業となっています。また、2023年時点のミャンマーの平均月収は547,000 MMK（約3.9万円）、平均年収は6,560,000 MMK（約47万円）。(参考：[Average Salary in Myanmar 2023](#))

平均年齢：27歳      ※日本は48.7歳

年少人口（0～14歳）約29%、  
生産年齢人口（15～64歳）約66%、

65歳以上人口 約6%。

人口は多くないが、平均年齢が若く、  
働き盛りの人が多い！

## 外国人労働者数【国籍別】

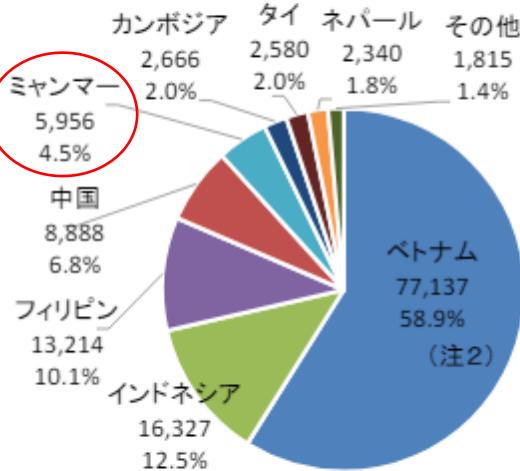
	令和元年 対前年増加率	令和2年 対前年増加率	令和3年 対前年増加率	令和4年 対前年増加率	令和5年 対前年増加率
外国人労働者総数	1,658,804 13.6%	1,724,328 4.0%	1,727,221 0.2%	1,822,725 5.5%	2,048,675 12.4%
ベトナム	401,326 26.7%	443,998 10.6%	453,344 2.1%	462,384 2.0%	518,364 12.1%
中国（香港、マカオを含む）	418,327 7.5%	419,431 0.3%	397,084 -5.3%	385,848 -2.8%	397,918 3.1%
フィリピン	179,685 9.6%	184,750 2.8%	191,083 3.4%	206,050 7.8%	226,846 10.1%
ネパール	91,770 12.5%	99,628 8.6%	98,260 -1.4%	118,196 20.3%	145,587 23.2%
ブラジル	135,455 6.3%	131,112 -3.2%	134,977 2.9%	135,167 0.1%	137,132 1.5%
インドネシア	51,337 23.4%	53,395 4.0%	52,810 -1.1%	77,889 47.5%	121,507 56.0%
韓国	69,191 10.7%	68,897 -0.4%	67,638 -1.8%	67,335 -0.4%	71,454 6.1%
ミャンマー	27,798 28.6%	31,410 13.0%	34,501 9.8%	47,498 37.7%	71,188 49.9%
タイ	28,302 13.9%	29,137 3.0%	29,355 0.7%	31,998 9.0%	36,543 14.2%
ペルー	29,554 3.0%	29,054 -1.7%	31,381 8.0%	31,263 -0.4%	31,584 1.0%

令和4年から令和5年にかけてミャンマーからの労働者が増加。インドネシアに次ぐ増加率

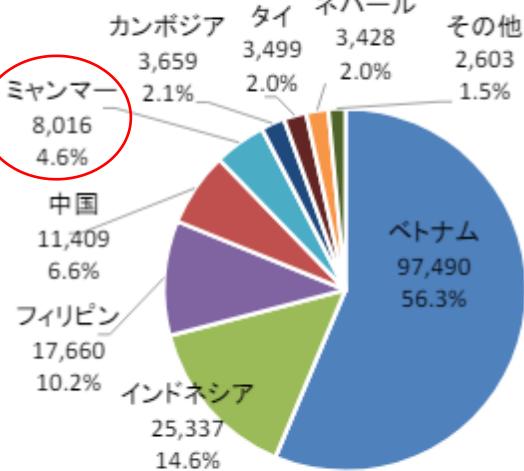
# 特定技能制度運用状況②

## 国籍・地域別特定技能在留外国人数の推移(注1)

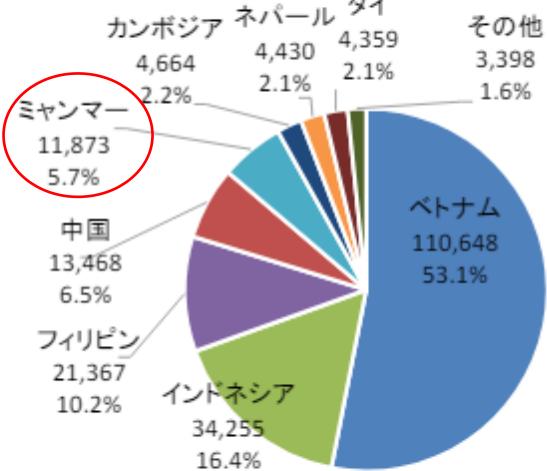
令和4年12月末: 130,923人



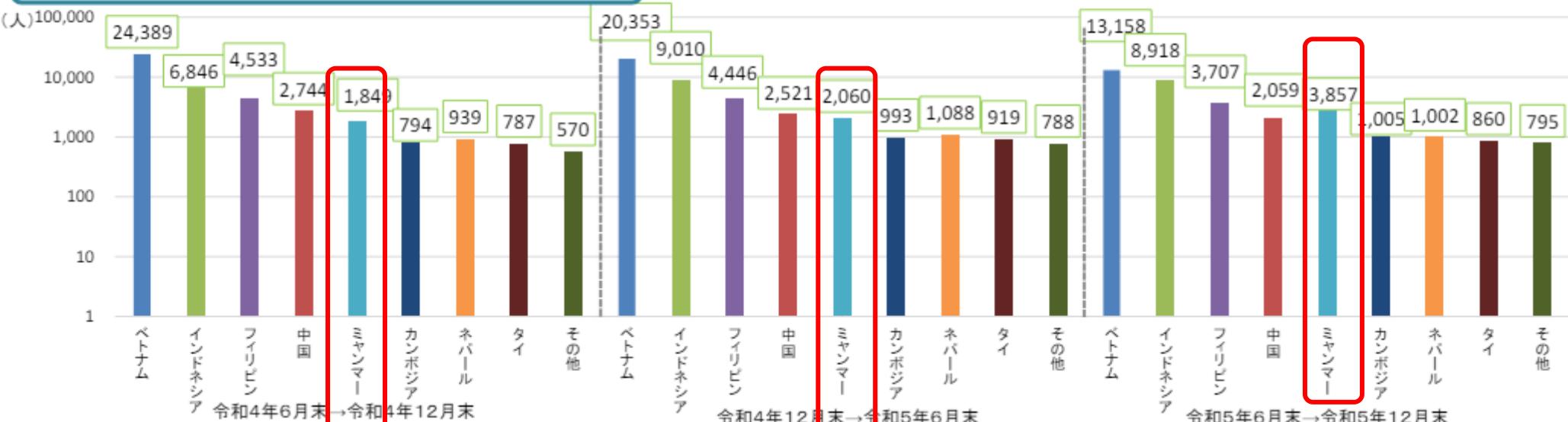
令和5年6月末: 173,101人



令和5年12月末: 208,462人(速報値)



## 国籍・地域別特定技能在留外国人増加数(注3)



(注1)「特定技能2号」の許可を受けて在留する者を含む。

(注2)構成比は小数点第二位で四捨五入。(注3)対数目盛で表示。

どうしてミャンマーが増加したのか？

コロナ期間中来日できなかった人たちの来日が相次いでいる（特定技能、技能実習を中心とすでに日本へ行くことが決まっていたが、来日できなかった人たちが動き出したことによる）→これはどの国も同じだが特定技能介護の試験が頻繁に行われていたミャンマーがクローズアップされたという面もありそう。。。

多くの特定技能試験の実施（介護・外食・宿泊・農業・・・）による、特定技能資格保有者の増加→ミャンマーでは比較的多くの分野の特定技能試験がコンスタントに実施されている→試験機会が多く与えられていることから、勉強のモチベーションが続く

就職難と海外志向の強まり

コロナウィルスによる大学等の休学（退学）の増加→労働人口が増加

特定技能試験実施により、日本で働く選択肢が増えた→技能実習に加えて、特定技能という選択肢ができた。

もともと親日的だったことも影響→現時点ではマレーシアやシンガポールで働くよりも日本で働くことが一種のブームになっている。

人材業者がほかのアジア圏の送り出し国からミャンマーに流入している

# 国籍・地域別 介護 特定技能1号在留外国人数

令和5年6月末現在（人）

国籍・地域	総数	介護分野	
総 数	173,089	21,915	13%
ベトナム	97,485	7,092	7%
インドネシア	25,337	5,229	21%
フィリピン	17,660	2,812	16%
中国	11,402	901	8%
ミャンマー	8,016	2,877	36%
カンボジア	3,659	218	6%
タイ	3,499	173	5%
ネパール	3,428	1,862	54%

出典：出入国在留管理局 特定技能在留外国  
人数 令和5年12月公表資料より抜粋

## 各国の特定技能介護人材の状況

- ベトナムは「技能実習」での入国者が多く、「技能実習 介護」を終えた方に加え、日本国内での試験を受けて特定技能介護を選ぶかたがいます。  
技能実習→特定技能介護への流れ 日本国内人材の還流  
※ベトナムでは本年より特定技能介護の試験がベトナム国内で受験できるようになりました。
- ネパールでは、介護分野の試験が理解しやすく、受験者も多い傾向です。
- インドネシアは全体の人口も多く、介護を目指す人が多いのですが、他国からの受験者の増加（試験が行われていない国からの流入）、受験者数に対して試験実施回数が少ないとことなどから、受験申し込みが殺到。受験資格を得ることがなかなかできない状況
- ミャンマーでも特定技能試験は人気があるものの、試験機会、会場が他国より多く設定されていることから、安定的に特定技能人材を輩出できる土壌ができています。

## ミャンマーで介護を選ぶ人が多い理由

仏教国であるミャンマーでは、お年寄りや障がいを持つ方を尊重し、大切にするという精神が根付いています。

また、日本のように介護施設などが充実していないため、家庭においておじいさんやおばあさんの面倒を見ることが日常的であり、お年寄りと生活を共にする、面倒を見るということに対する抵抗感は少ないと考えられます。

日本に行って働くのであれば、自分が家庭内で経験した介護を仕事にしたいという気持ちの方も多いようです。

特定技能介護試験は上記のように自分たちが経験した内容であり、比較的取り組みやすいのではないでしょうか。

## ミャンマー人とよりよく働くために

### 日本の「生活」「習慣」「当たり前」をきちんと教える

日本の生活や習慣は彼らにとっては当たり前じゃありません。例えば、ミャンマーの家庭では、掃除機がある家庭は多くありません。したがって、掃除機の使い方がわからないという人も多くいます。

また、ミャンマーでは全く使わないわけではないですが、日常的には、手またはフォークとスプーンで食事をする習慣です。

日本あたりまえはミャンマー人にはわからないことだらけですので、その点を注意してご指導ください。

### 継続的に日本語学習を続けるように導く

日本である程度仕事がこなせるようになると、今の日本語力で仕事ができるのだから、これ以上勉強しなくてもいいかも・・・と考える人が多いです。

しかし、ちょっとした言葉の行き違いや、指示の聞き間違いなどは本人たちにとっても、法人様にとっても思わぬトラブルやミスの原因になりかねません。

双方がWin Winとなり、さらに仕事で成長するためには、「日本語の勉強を継続する」ことが一番の近道です。日本語力が高まれば、できる仕事も増え、施設ではまかせられる人材となるはずです。

特に、勤勉で何事にも一生懸命取り組むミャンマー人は仕事で役立つ、自分のためになる、スキルアップができると思えば、努力をおしみません。

ぜにとも、みなさまのお力で「育てる」気持ちで接していただければと思います。

よりくわしい話はこのあとのおふたりにお願いいたします。